

2016 年度 事業報告

特定非営利活動法人N I E D ・国際理解教育センター

1 事業実施の方針

次に掲げるビジョン、ミッション、バリューに基づき、事業を行った。

なお、ミッション、バリューについては、事業計画承認段階から見直し、追加などを行った。

<ビジョン>

よりよい未来を、子どももおとなも、ともに学び・ともに創る社会をめざします。

<ミッション>

ビジョン実現のために、「国際理解教育」の実践として、次のことに取り組み続けます。

- ① 社会の課題に気づき、人権・環境・平和を守る価値観や行動力を育みます。
- ② 自分、他者、社会に関わるスキルを培い、社会に対する効力感を育みます。
- ③ 様々な教育現場で、参加型の人権教育・環境教育・平和教育などを広め、またその担い手を養成します。
- ④ 様々な地域やテーマの場で、参加と対話によるコミュニティづくりを進め、またその担い手を養成します。
- ⑤ ミッションに関する調査・研究をし、広くアドボカシー活動を行います。

<バリュー>

【尊厳と信頼】ひとり一人が大切な存在であり、力があると信じること。

【願いと選択】何を指すか、どう行動するかを問い続けること。

【教育と実践】ファシリテーターであると同時に、学び続ける実践者であること。

※カギ括弧の「国際理解教育」は、一教育分野としての国際理解教育を指すものではなく、ここに掲げたビジョン、ミッション、バリューを实践、推進する活動全体を指すものである。当団体の名称も同義である。

私たちが目指す社会の姿

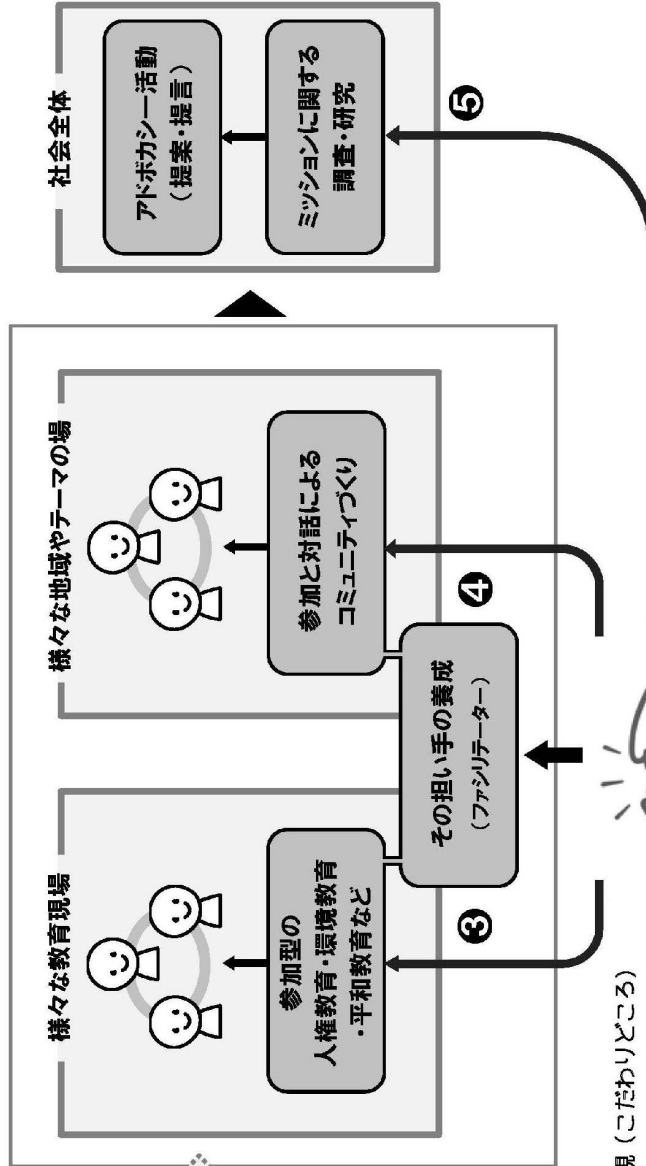
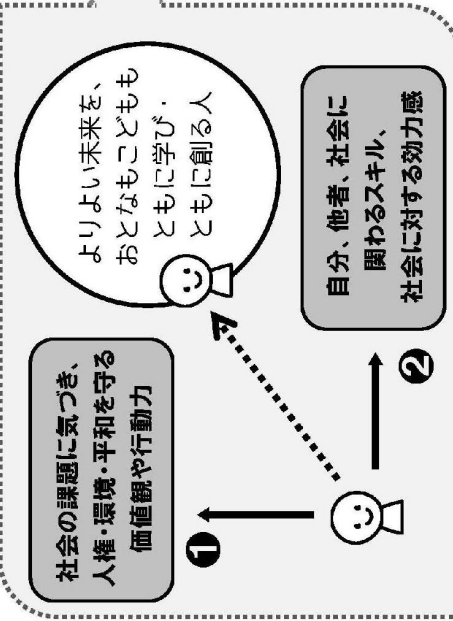
ビジョン

よりよい未来を、こどもおとなも
ともに学び・ともに創る社会

ビジョン実現のために私たちが果たす社会的使命 = 「国際理解教育」の実践

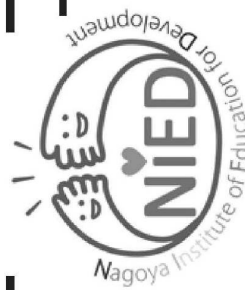
ミッション

各場におけるひとり一人のエンパワーメントの方向



バリュー ミッションを遂行する上で私たちが大切する価値観（こだわりどころ）

- 【尊敬と信頼】 ひとり一人が大切な存在であり、力があると信じること。
- 【願いと選択】 何を目指すが、どう行動するかを問い続けること。
- 【教育と実践】 ファシリテーターであると同時に、学び続ける実践者であること。



特定非営利活動法人
NIED・国際理解教育センター
(ファシリテーター)

2 ミッションに対する2016年度の総括

① 社会の課題に気づき、人権・環境・平和を守る価値観や行動力を育みます。

(1) ワークショップで扱ったテーマ

◇2016 年度に NIED が提供したワークショップのテーマは、大きく分類して、国際理解系（国際交流、多文化共生を含む）が 14 件と最も多く、次いで人権系（セルフエスティーム・コミュニケーションを含む）が 6 件、環境系が 3 件となった。テーマ横断的なものとして、ファシリテーション・まちづくり系が 9 件と比較的多くなっている。

ワークショップで扱ったテーマ件数の推移

テーマ	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
国際理解系	16 件	12 件	13 件	16 件	14 件
人権系	4 件	8 件	12 件	11 件	6 件
環境系	4 件	5 件	10 件	2 件	3 件
ファシリテーション ・まちづくり系	6 件	5 件	7 件	12 件	9 件

※T講座は複数テーマを扱っているため、重複計上している。

(2) ミッション①に関する成果（学習者の変化）

◇提供したワークショップのうち、統計的なアンケートを行った2つの研修・講座のケースで、学習者の変化についての分析結果を P.4～8 に示した。

◇2つのケースは、「国際理解系」のテーマであるが、「社会の課題に気づき、人権・環境・平和を守る価値観や行動力を育む」ことを講座・研修のねらいに入っている。ケースA、B双方の受講後のアンケート結果からわかるとおり、自分の意識や行動により良い変化があったり、社会課題に対する関心、テーマに関する理解や行動（考え）が進んだりした学習者が大半を占めている。

◇また、ケースBにおいては、研修の受講者が、教育現場などで国際理解教育の実践を行うことにより、その学習者にも意識や行動に変化をもたらしている。その学習者の人数は、受講者 41 人に対して、2,721 人（延べ 36,356 人・時間）と大きく波及した。

◇他の講座や研修でも、終了後に取ったふりかえりシートには、ミッション①が進んだとする意見が散見されている。

◇これからのことから、当団体が提供する講座・研修は、ミッション①を進めることに寄与しているといえる。

(3) ミッション①に関する課題

<NIED としての総合的系統的な整理・分析>

◇ミッション①をワークショップのねらいとすることで、ねらいを達成するためのプログラム（アクティビティ）を提供している。そのねらいが達成されたかは、統計的なアンケートを取り分析するもの、ふりかえりシートに自由に記入してもらったもので個別に確認しているのみで、個々の講座・研修限りとなっている。今後は、NIED として、総合的系統的に整理・分析することが望まれる。

【ケースA】16009 中部大学春日丘高等学校 SGHグローバル課題研究「世界の現状を知り考える学習」
 ◇対象：高校1年生 ◇人数：142人 ◇時間数：50分×8時限（全5日） ◇F：伊沢、平野、長野

<講座の概要>

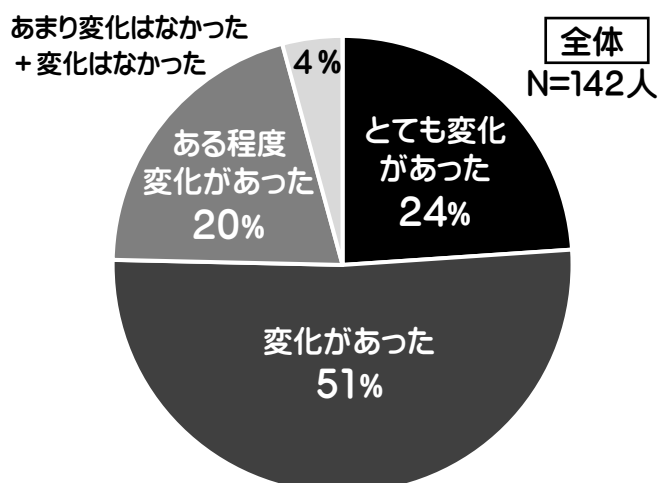
テーマタイトル	時限	ねらい
世界と肯定的に出会う～人と世界の多様性と同一性～	2	① 参加型で学び合うワークショップのポイントを体験的に理解する。 ② 人や世界の多様性を実感し、違いを肯定的に受けとめると同時に、心の同一性にも気づく。 ③ 人の価値観は多様であり、一方の価値観の押しつけは対立につながることに気づく。
世界と自分のつながり ～グローバル化の光と影～	1	① 自分と他者、自分と世界は、どこでどのようにつながっているのかふりかえり確認する。 ② 世界と日本を俯瞰し、グローバル化による恩恵は何か、恩恵に預かっている人は誰かを理解する。 ③ 恩恵がある一方、グローバル化した世界は多くの課題を抱えていることに気づく。
世界の現状と課題～グローバル・イシュー…何が問題？なぜ問題？	3	① グローバル・イシューを、人権(貧困)と環境(持続可能性)の視点から掘り下げつなかりに気づく。 ② 問題の現状を知り、原因を探り、解決に向けて必要なものや役立つことを考える。 ③ 様々な参加型手法を活用し、協力して学ぶ力、ファシリテーションの力、システム思考を養う。
国際協力と社会貢献～グローバル・イシューとグローバル・シチズン～	2	① 国際協力や社会貢献とは何か、その意味を知り意義を考える。 ② 日本が行う多様な国際協力や日本の中で取り組まれている社会貢献活動についての情報を得る。 ③ グローバル・シチズン(地球市民)として、これから自分はどう社会や世界に関わるのかを考える。

<学習者の変化>

● 問1：意識や行動のより良い変化の有無・程度

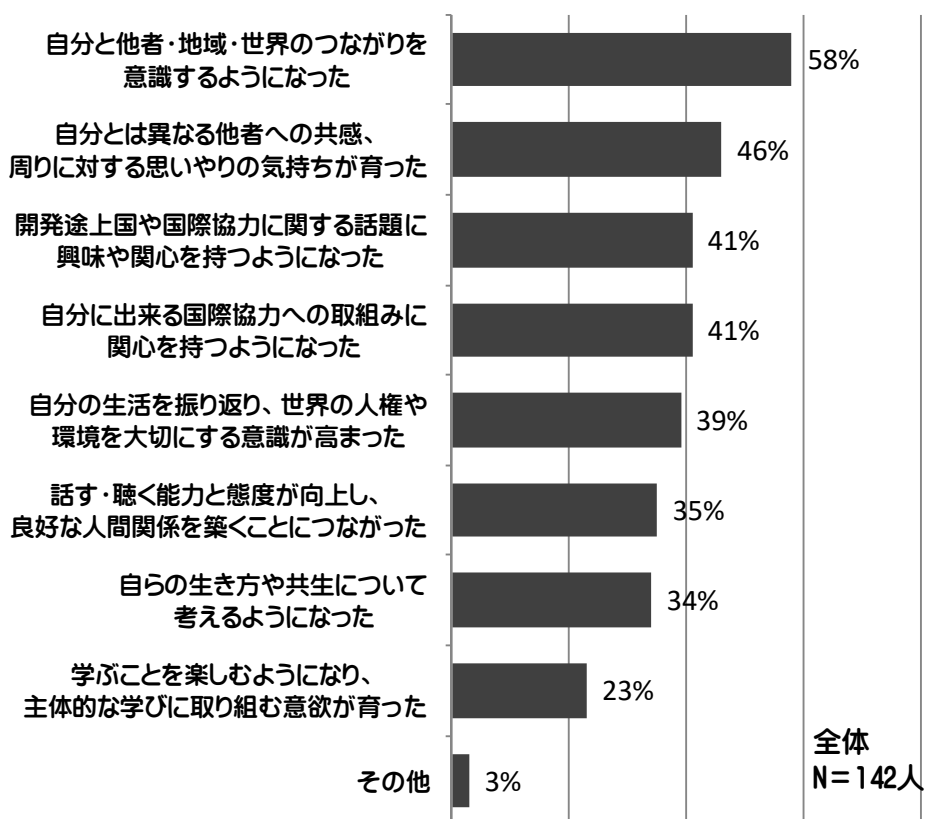
「学習Aの授業を通して、自分の意識や行動に、より良い変化はありましたか」

◇ 全体の96%が、授業を通して自分の意識や行動に何らかのより良い変化があったと回答。



● **問2**：より良い変化の内容 「どのようなより良い変化がありましたか。」（複数回答）

◇ 全体で上位3位は、「自分と世界等のつながり」58%、「共感や思いやり」46%、「国際的課題への関心」41%、「自分に出来る国際協力」41%。



【より良い変化 その他回答の具体的内容】

- ◇他の目線からも物事をみることができるようになった。
- ◇自分が将来やってみたいと思うことの中に貧しい国を助けたいという気持ちが芽生えた。
- ◇身近に出来ることから取り組むべきだと思えるようになった。
- ◇自分が将来したいと思う仕事は少しだけはっきりしたように思えた。

【ケースB】16001 JICA 中部 開発教育指導者研修（実践編）

◇対象：小・中・高校・特別校の教員等 ◇人数：42人 ◇時間数：38.5時間（全8日） ◇F：伊沢

＜研修の概要＞

テーマタイトル	時間	ねらい
開発教育・国際理解教育のめざすもの	8	① 各自の参加の目的を振り返り、共に学び合う仲間同士知り合う。 ② グローバル化した世界の現状と課題を共有し、自分と世界、自分と社会課題とのつながりに気づく。 ③ 世界共通のビジョン SDGs に関する理解を深め、開発教育・国際理解教育の必要性を確認する。
開発教育・国際理解教育にできること	8	① 開発教育・国際理解教育が扱う5つの柱について理解する。 ② 「多様性」「同一性」「わたし・あなた・みんなのつながり」についての学び方を習得する。 ③ 課題を共に越えるために必要なスキルとスキルビルディングについて学ぶ。
開発教育・国際理解教育のすすめかた	10	① 流れのあるプログラムの作り方について学び、参加型手法を習熟する。 ② 実際にプログラムを作り、ファシリテーターとしてプログラムを実施する練習をする。 ③ ファシリテーターの役割とよりよい参加型の進め方についてポイントとなることを確認する。
開発教育・国際理解教育をつなげよう	7	① 第3回以降、研修での学びを基にした各自の実践を共有する。 ② 1年間を通じた研修の成果を共にふりかえる。 ③ 研修成果と実践を一般市民に向けて参加型で提供し、次へとつなぐ。
ヒントが見つかる！ 仲間に出会える！	5.5	① 【受講者】実践報告、モデルプログラムのファシリテートと参加者との意見交換を通して、実践の自己確認、総括を行い、ネクストステップへの意欲を高める。 ② 【参加者】実践者の成果と課題を共有し、自らの実践のヒントとネットワークを得てもらう。 ③ 【主催者】国際理解教育・開発教育を推進し、研修事業の次の参加者を広げる。

＜受講者の変化＞

● 受講者の関心の高まり

受講者の85%が、「受講後により関心が高まった」と回答しており、本研修が受講者の人権、環境、貧困、開発、共生、平和などに関する情報への関心の高まりに寄与しているといえる【問3】。

問3；研修を通じて、人権、環境、貧困、開発、共生、平和などに関する情報に関心を持つようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	受講前から関心があったが、受講後より関心が高まった	35	85%
2	受講前はあまり関心なかったが、受講後関心が高まった	2	5%
3	受講前から関心があり、受講後も変わらない	4	10%
4	受講前はあまり関心なかったし、受講後も変わらない	0	0%
	全体	41	100%

研修を通して、受講者自身が「地球上で起きている環境や貧困問題と自分とのつながりについての理解」したり、「国際協力について自分にできることの意識化」をしたりできたかについてみると、前者は「よくわかった」と「わかった」を合わせて88%、後者は「よく考えるようになった」と「考えるようになった」を合わせて95%となっており、本研修は受講者自身の学びや行動に繋がったといえる。

問4；研修を通じて、地球上で起きている環境や貧困の問題と自分たちの生活とのつながりがわかりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	よくわかった	24	59%
2	わかった	12	29%
3	ある程度はわかった	5	12%
4	あまりわからなかった+わからなかった	0	0%
	全体	41	100%

問5；国際協力（身近な買い物から直接支援まで）について自分にできることを考えるようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	よく考えるようになった	23	56%
2	考えるようになった	16	39%
3	ある程度は考えるようになった	2	5%
4	あまり考えるようにならなかった+考えるようにならなかった	0	0%
	全体	41	100%

● 実践内容

前年度に比べて実践内容は深まったかどうかについては、「とても深まった」67%、「深まった」26%、「ある程度深まった」25%との回答が得られ100%の受講者が、実践内容が深まったとしている【問6】。

その理由は、「研修の質と量」「開発教育・国際理解教育への理解の深まり」「参加型の理論と方法理解とスキルの習得」「学びの継続、経験の蓄積、意欲の高まり」「十分な実践時間確保と授業計画の立案」「多様な仲間との対話と刺激」「リソース・教材の入手と活用」などとなっている。

問6；前年度に比べて本年度の実践内容はどうのようになったと思いますか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても深まった	26	67%
2	深まった	10	26%
3	ある程度深まった	3	7%
4	あまり深まらなかった+深まらなかった	0	0%
	全体（無回答2名除く）	39	100%

● 最も大きな学びや変化

設問7；1年間の研修を通して、あなたの最も大きな学びや変化は何でしたか？（代表例）

<教育観・教育内容の変化>

◇以前は、参加型という「手法」を重要視していたが、この1年を通して、持続的な社会形成のために必要な手段（自ら考え発信する参加型で他人事から自分事にシフトする）として考えるようになった。

<自分の変化、児童生徒などの変化を通した参加型の効果の実感>

◇この教育は自己を見つめ直す機会となり、自己肯定感を高め、人間形成のための教育である。

<他者、社会、世界への関心の高まり、視野の広がり、視点の変化>

◇世界の人々のことを考えることは、身近な他者について考えることと同じだった。

<自分自身の行動の変化、スキルの向上>

◇自分自身が変わることがすごく大切！！少しずつ周りに自分の思いが伝わり、ポジティブな方向に向かっていくことを感じた。

<仲間との出会いと協働、仲間からの刺激を通した自身の変化>

◇自分と同じ志をもった仲間がたくさんいるということがとても心強く、以前より積極的に実践していこうと思うようになった。仲間と出会いは自分の世界を広げた。縁をつなげていきたい。

＜受講者の実践によるその学習者の変化＞

● 学習者の変化

開発教育・国際理解教育の実践により学習者のより良い変化があったかについては、「とても変化があった」「変化があった」と合わせて受講者の76%が学習者のより良い変化を強く実感している【問8】。

より良い変化の中身については、「開発途上国や国際協力に関する話題に興味や関心を持つようになった」69%、「自分と他者・地域・世界のつながりを意識するようになった」69%、「学ぶことを楽しむようになり、主体的または継続的な学びに取り組む意欲が育った」51%が上位3位となっている。また、「自分とは異なる他者への共感、周りに対する思いやりの気持ちが育った」46%、「自らの生き方や共生について考えるようになった」38%、「話す・聴く能力と態度が向上し、良好な人間関係を築くことにつながった」33%といった変化の実感があった受講者も1/3以上となっている。

これらのことから、受講者の実践により、「様々な課題の解決に向かおうとする意識の育成」や「自己肯定感・コミュニケーション・参加協力に関わるスキルトレーニング」に関し、学習者のより良い変化が現れているといえる【問9】。

問8；開発教育・国際理解教育の実践により
学習者により良い変化がありましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても変化があった	14	34%
2	変化があった	17	42%
3	ある程度は変化があった	8	20%
4	あまり変化はなかった	2	4%
5	変化はなかった	0	0%
	全体	41	100%

問9；学習者にどのようなより良い変化がありましたか。(複数回答)

No.	選択肢	回答者数	割合
1	開発途上国や国際協力に関する話題に興味や関心を持つようになった	27	69%
2	自分と他者・地域・世界のつながりを意識するようになった	27	69%
3	学ぶことを楽しむようになり、主体的または継続的な学びに取り組む意欲が育った	20	51%
4	自分とは異なる他者への共感、周りに対する思いやりの気持ちが育った	18	46%
5	自分の生活を振り返り、世界の人權や環境を大切にすることを意識が高まった	17	44%
6	自らの生き方や共生について考えるようになった	15	38%
7	話す・聴く能力と態度が向上し、良好な人間関係を築くことにつながった	13	33%
8	自分に出来る国際協力への取り組みに関心を持つようになった	10	26%
9	その他	4	10%
	全体	39	100%

② 自分、他者、社会に関わるスキルを培い、社会に対する効力感を育みます。

(1) ミッション②に関する成果（学習者の変化）

◇NIED が考える「自分、他者、社会に関わるスキル」とは、次のようなものである。



◇これらのスキル（力）は、自分をふりかえることで「自分と関わる」、対話することで「他者と関わる」、意見を交わし、互いを理解し、対立があれば建設的に解決していくことで「社会に関わる」など、実際に関わる現場に参加することで身につくものである。

◇そのため、NIED の提供する講座・研修は、基本的に、ミッション②「自分、他者、社会に関わるスキルを培う」こともねらいに据えて、アイスブレイクを必ず入れ、全体を通して参加型のワークショップ形式で行っている。

◇その成果は、前述のケースA・Bに関わる学習者のより良い変化の内容として、自分に関わる力と関連する「学ぶことを楽しむようになり、主体的または継続的な学びに取り組む意欲が育った」、他者と関わる力に関連する「話す・聴く能力と態度が向上し、良好な人間関係を築くことにつながった」と「自分とは異なる他者への共感、周りに対する思いやりの気持ちが育った」と回答する者が少なからずいるということからわかる。

◇また、ミッション④に関わる事業で、基本的に異なる文化や考えを持つ、地域住民同士、市役所職員と市民団体、同じテーマで集まった集団などを対象として、参加と対話により、課題とビジョンを共有し、政策提言から参加者が協働して行うプロジェクト実施まで支援を行ってきた。その実践の過程で、みんなに関わる力が、参加者に育ってきているのを実感できた。

◇これからのことから、当団体が提供する講座・研修、参加と対話によるコミュニティづくり事業は、ミッション②を進めることに寄与しているといえる。

(2) ミッション②に関する課題

<具体的対象の社会に対する効力感を高める手立てや見通しを伴った実践継続>

◇選挙の投票率の低さからも特に半数以上の若者にあると思われる「社会に対する効力感」のなさが蔓延しているように感じる現状を打破していく手立てや見通しを考え、ミッション②を実践しつづけること。身近なところからできるところから一歩ずつ。

③ 様々な教育現場で、参加型の人権教育・環境教育・平和教育などを広め、またその担い手を養成します。

(1) ミッション③に関する成果1(学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座)

◇2016年度の当該実績は、下表のとおりで、分析結果を以下に示した。

◇現場…中学校1、高校2、大学1、NPO2、県1、JICA1、NIED(自主)2
 ◇対象…学生6、一般3、教員1
 ◇テーマ…国際理解系6、人権1、環境1、ファシリテーション・複合2
 ◇参加者数…586人(延べ1,137人)
 ◇提供時間…82.5時間

③-T 様々な教育現場における「学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座」の2016年度実績

No.	依頼主/主催	事業名/研修等一マ	テーマ区分	対象	参加者数	延べ参加者数	WS時間
16001	独立行政法人 国際協力機構 中部国際センター	2016年度開発教育支援関連業務(研修) ③開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム	開発・国際理解	教員等	125	125	5.5
16006	(特活)NIED・ 国際理解教育センター	参加型で世界は変わる～NIED国際理解教育講座テーマ編2016 ①T講座…参加、コミュニケーション、対立、環境、人権	参加/コミュニケーション/対立/環境/人権	一般	32	61	30.0
16008	(特活)NIED・ 国際理解教育センター	お昼場・月夜場 本山シェアオフィスの活用のための自主プロジェクト(NIED担当分) ②アイスブレイク・ラボ	ファシリテーション	一般	5	12	10.0
16009	中部大学 春日丘高等学校	中部大学春日丘高等学校SGHグローバル課題研究 世界の現状を知り考える学習(8時限/全5回)	開発・国際理解	高校1年生	95	475	8.0
16018	豊田市立旭中学校	人権を考える集い(生徒と保護者) 大切なわたしと大切なあなた ①全体ワーク、②生徒・保護者別ワーク	人権	中学生、 その保護者	90	90	2.0
16021	中京大学 現代社会学部	グローバル市民論 各論…①世界の子ども、②国際協力、③NGO活動、 ④多様性と共生、⑤社会参加	開発・国際理解	大学生	40	175	15.0
16026	名古屋ユネスコ協会	第3回ユネスコ協会・ESDパスポート体験発表会 よりよい未来を一緒に創ろう! 全体交流会ワークショップ	開発・国際理解	中学生、高 校生、教員、 協会関係者	70	70	2.0
16027	大垣ユネスコ協会	グローバルイシュー ワークショップ 日本と世界をつなぐコミュニケーション力を高めよう! 「幸せ」から考える「私たちの望むより良い未来」	開発・国際理解	高校生、 在住外国人	74	74	3.0
16029	光ヶ丘高等学校/ 特定非営利活動法人 アスカネット	光ヶ丘女子高等学校 4days大学プロジェクト 国際関係学部～グローバル化と多様性と持続可能な未来 ①ワークショップ、②生徒発表講評	開発・国際理解	高校生	40	40	2.0
16032	三重県 環境学習情報センター	三重県環境学習リーダー養成講座 ①:アクティビティ体験コース	環境/ESD	一般	15	15	5.0
					586	1,137	82.5

(2) ミッション③に関する成果2(その担い手を養成する研修)

◇2016年度の当該実績は、次ページ表のとおりで、分析結果を以下に示した。

◇現場…小学校1、高校2、教育団体2、大学2、NPO1、県1、JICA4、NIED(自主)1
 ◇対象…教員6、教員等5、大学生1、環境リーダー1、NIED会員1
 ◇テーマ…国際理解系4、人権3、環境1、ファシリテーション・複合6
 ◇参加者数…551人(延べ1,325人)
 ◇提供時間…183.5時間

③-F 様々な教育現場における「その担い手を養成する研修」の2016年度実績

No.	依頼主/主催	事業名/研修等ーマ	テーマ区分	対象	参加者数	延べ参加者数	WS時間
16001	独立行政法人 国際協力機構 中部国際センター	2016年度開発教育支援関連業務(研修) ①2016年度開発教育指導者研修(実践編)	開発・国際理解	教員等	55	360	38.5
16001	独立行政法人 国際協力機構 中部国際センター	2016年度開発教育支援関連業務(研修) ②2016年度教師海外研修	開発・国際理解	教員	16	264	51.0
16006	(特活)NIED・ 国際理解教育センター	参加型で世界は変わる～NIED国際理解教育講座テーマ編2016 ②T講座検討寄り合い、③メンター(研究員等)伴走による プログラムづくり、④アクティビティ体験寄り合い	参加/コミュニケーション/対立/環境/人権	NIED会員	17	37	20.0
16011	あいち国際理解教育勉強 会AIUEO	AIUEO国際理解教育講座 大切なわたし、大切なあなた、大切なみんな ～「人権意識」と「人権の学力」と「ソーシャルスキル」を育てる参加型人権教育～	人権	教員等	30	30	2.5
16013	名古屋市立北高等学校	北高校教員ファシリテーター研修 ①対話を引き出し、学び合いを活性化させるファシリテーション ②学ぶこと=変わることに価値観とスキルを育て行動変容を支える参加型	ファシリテーション	教員	20	40	4.0
16014	愛知淑徳大学 交流文化学部	愛知淑徳大学 ファシリテーション及びファシリテーターの講座 ①「ファシリテーション」というツールを手に入れる！ ②「ファシリテーション」とファシリテーター	ファシリテーション	大学生	60	120	3.0
16015	西橋内中学校区 保幼小中一貫教育 推進協議会	保幼小中一貫教育推進協議会 人権教育部会研修 人権尊重スキルを育てる参加型人権教育	人権	教員	50	50	3.0
16016	香川県教育委員会 人権同和教育課	平成28年度参加体験型学習ファシリテーター養成講座 人権尊重社会実現のカギはここにある ①参加型人権教育がめざすもの～「参加型」と「人権教育」に関する共通基盤を持つ ②参加型人権教育のできること～「人権尊重社会」を実現する価値観とスキルを育てる	人権	自治体職員、教員	48	96	11.0
16017	大治南小学校	大治南小学校 校内現職教育 能動的学修にシフトする参加型のススメ ～自ら考え・他者の力も借りて学び合う 学び合いの進め方～	ファシリテーション	教員	30	30	3.0
16022	独立行政法人 国際協力機構 北海道国際センター	2016年度 国際理解教育指導者研修(入門編) 人権・環境・平和のための教育 ～「共に生きる社会」を創るカギはココにある！～	開発・国際理解	教員等	80	80	18.0
16023	独立行政法人 国際協力機構 駒ヶ根青年海外協力隊 訓練所	2016年度 国際理解教育指導者セミナー 参加型で実践！国際理解をもっと身近に！	開発・国際理解	教員等	30	60	10.0
16024	愛知淑徳大学 交流文化学部	愛知淑徳大学 交流文化学部 FD研修会 「ファシリテーション」と学習指導	ファシリテーション	大学教員	13	13	1.5
16032	三重県 環境学習情報センター	三重県環境学習リーダー養成講座 ②:ファシリテーター養成コース(全3回)	環境/ESD	環境 リーダー	22	65	15.0
16035	中部大学春日丘高等学校	アクティブ・ラーニング教員研修 アクティブ・ラーニングの視点からの授業づくり ～主体的・協働的・能動的学修をデザインする 目的とポイント～	アクティブ ラーニング	教員	80	80	3.0
					551	1,325	183.5

(3) ミッション③に関する課題

<幅広い対象 × テーマ・教科ごとのプログラムの検討・提供>

◇「学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座」の対象者として、2016年度は小学生がなかった。

NIEDは「担い手を養成する研修」をより重視して提供する方針であるが、NIEDが提供する講座を担当の先生が見て学ぶという視点や、各年代向けの多様なテーマに関するプログラムを検討・実施することで当該指導者への研修に生かすことができるという視点などから、「学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座」を、幅広い対象・テーマで提供することは意義があることと位置づけて、ファシリテーターの派遣体制も考慮のうえ、受託・実施のあり方について検討する必要がある。

◇「その担い手を養成する研修」でも同様なことがいえる。特に、2020年度からの新学習指導要領で、アクティブ・ラーニング(主体的、対話的な深い学び)が導入されることから、対象、テーマ、教科ごとに、ミッション①、②に寄与するプログラムを提供できるとよい。

(4) ミッション③に関する成果と課題 (NIED の自主的取り組み)

◇ミッション③に関する NIED の自主的取り組みに関する成果と課題は次のとおり。

< 参加型で世界は変わる～N I E D 国際理解教育講座テーマ編 2016 >

区分	成果	課題
学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座 ①T講座	◇5回、32人、延べ61人、平均12.2人[前年度:4回、24人、延べ44人、平均11人]の参加者を得て、国際理解教育の様々なテーマ(参加・コミュニケーション・対立・環境・人権)について講座を行い、テーマごとに参加者とともに、学びを深めることができた。 ◇うちNIEDメンバー(新入会者を除く)は、13人、延べ28人[前年度:9人、延べ17人]が参加し、NIED人材の教育力向上に資することができた。 ◇参加者数は、第3回「対立」を除いて10数人(10～19人)の参加を得られ、例年と比べてコンスタントに学びの場を作ることができた。	◆第3回のみ6人の参加に留まった。各回10名以上の参加が学びあいの観点からも望まれる。
その担い手を養成する研修 ②T講座 プロジェクト	◇5月に担当理事、各回の担当ファシリテーター5人および担当研究員でプロジェクトチームを立ち上げた。プログラム・メイキングの基礎をキックオフ・ミーティングで行い、その後担当ファシリテーターは担当研究員と共に複数回のミーティングを重ねてプログラムを練り上げた。本番1ヶ月前にはプログラム検討寄り合いを行い、プロジェクトメンバーおよび寄り合い参加者からのアドバイスを受けながらさらにプログラムの練り込みを行った。当日は6時間に渡るワークショップを行い、外部参加者に対してファシリテーションを実際に行うという経験値を得ることが出来た。また講座終了後にすぐに振り返り会を行い、「よかったところ」「さらに良くなるための改善点」を中心に話し合いを行い、スキルアップを行うことができた。 ◇T講座全体を通して実際にファシリテーターとして経験値を増したメンバーのみならず、担当研究員や講座・検討寄り合いに参加したNIEDメンバー全員の教育力向上を図ることができた。	◆NIEDのプログラム、ファシリテーションをよりよく提供しつづけるために、T講座のプログラムのあり方、メイキング体制について、引き続き検討していく必要がある。
その担い手を養成する研修 ③NIED寄り合いT講座系	◇7月に「アクティビティ体験寄り合い」を実施し、12人の参加を得られた。T講座でファシリテーターを担う予定の4人がアクティビティを提供し、体験すると同時により良いアクティビティにするための検討を行い、多くの学びを得られた。 ◇5回行われたT講座と連動し、各講座の1ヶ月前にT講座検討寄り合いを行った。講座の担当ファシリテーターが作成したプログラムを寄り合い参加者全員で検討したり、実際に予定されているアクティビティを経験したりしながら、研鑽に励むことができた。	◆関係メンバー以外の参加が少なく、すべての会員を対象に開催されているというアピールをさらに進める必要がある。 ◆アクティビティ体験寄り合いは実施が1回に留まった。今後、無理なくかつコンスタントに継続していくための工夫が必要である。

<参加型で世界は変わる～NIED国際理解教育講座ファシリテーター編 2016>

区分	成果	課題
その担い手を養成する研修 F講座	◇なし。	<ul style="list-style-type: none"> ◆2015 年度に 5 月と 3 月の 2 度開催したこと、T 講座開催期間外の週末日程に余裕がなくなり、2016 年度は開催できなかった。 ◆学校教育において「アクティブ・ラーニング」への関心が高まり、本テーマに関するワークショップ依頼が増えている現状も鑑み、これまで NIED が取り組んできた「参加型」の意味と意義と方法を体系的包括的に伝えることのできる NIED 人材を育成する観点からも、自主講座としての F 講座実施が不可欠である。 ◆まちづくり系、会議系、教育系など、多岐に渡るファシリテーションのどの場にも関わってきた NIED の経験知を活かし、「参加を文化に！」「オモイをカタチに！」「自ら考え自ら動く」人を内外に増やすため、NIED 自主講座としての F 講座の意義を今一度確認しなおし、年度初めに日程を調整し備えることが必要である。

< I V Y (アイビー) 制度 > …NIED メンバーが他の NIED ファシリテーターが実施する研修・講座等と同行し、実際にワークショップやファシリテートを見て学ぶ機会を作るもの(交通費自己負担、報告書要提出)。

区分	成果	課題
その担い手を養成する研修 IVY 制度	<ul style="list-style-type: none"> ◇2016 年度の利用は 2 業務延べ 9 名であった。 ◇昨年度実績 1 業務 1 名より、利用人数が増加した理由は、事務局からの具体的な声かけが大きいと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆2015 年度の会員アンケートでは、「利用したい」69% と利用意向は高いため、積極的なアピールを行うことが望まれる。

< NIED ファシリテーター制度 (研究員、研究員候補、T 講座 F 経験者) >

区分	成果	課題
その担い手を養成する研修 F 制度	<ul style="list-style-type: none"> ◇受託・派遣事業を担った研究員候補は 3 人(吉岡、田口、鉄井)、研究員は 4 人(久世、伴、平野、堀川)であった。 ◇新たに研究員候補や研究員になった者はいなかったが、T 講座経験者が新たに 4 人増え、裾野が広がった。 ◇若い世代の研究員を増やすために、理事会で当面の重点候補 4 人を定めた。 ◇ファシリテーター派遣に係る謝金規程を改訂し、代表がメンターとして関わることを位置づけることで、代表以外が受託・派遣を担う素地を作った。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆代表以外がファシリテーターを担う割合が 43%(日数ベース)であったが、50%を上回るように積極的な取り組みが望まれる。 ◆研究員候補が研究員になるため指導者研修派遣機会の作り方を検討する必要がある。

④ 様々な地域やテーマの場で、参加と対話によるコミュニティづくりを進め、またその担い手を養成します。

(1) ミッション④に関する成果1 (NIEDが直接コミュニティづくりをする事業)

◇2016年度の当該実績は、下表のとおりで、分析結果を以下に示した。

- ◇地域・テーマの場…地域コミュニティ4、市役所2、県内1、NPO2
 ◇対象…地域住民4、市職員2、ユース1、研修受講生1、子育て世代1
 ◇テーマ…国際理解系2、福祉1、環境1、子ども・子育て1、コミュニケーション1、全般3
 ◇参加者数…195人(延べ474人)
 ◇提供時間…92.5時間

④-T 様々な地域やテーマの場における「NIEDが直接コミュニティづくりをする事業」の2016年度実績

No.	依頼主/主催	事業名/研修等テーマ	テーマ区分	対象	参加者数	延べ参加者数	WS時間
16002	刈谷市 市民協働課	平成28年度刈谷市国際化・多文化共生推進支援業務 ①共生の地域・学区プロジェクト	国際交流/ 多文化共生	地域住民	20	90	15.0
16004	公益財団法人 愛知県国際交流協会	未来を築くユース会議業務委託 会議プログラムの企画、チラシ作成、ファシリテーター派遣、記録の作成	開発・国際理解	ユース 15～25才	20	65	24.0
16005	多治見市 高齢福祉課	多治見市笠原町における地域力向上アクションプラン策定支援業務 ②住民参加ワークショップ	まちづくり	地域住民	40	131	24.0
16008	(特活)NIED・ 国際理解教育センター	お昼場・月夜場 本山シェアオフィスの活用のための自主プロジェクト (NIED担当分)①お昼場	子ども・子育て	一般	5	11	8.0
16012	大府市 協働促進課	大府市地域力活性化化学習会 「ハッピーご近所組織で行こうよ」(大府市) まちづくりは人間関係づくり ①コミュニケーションで相互理解、②対立を超えるコミュニケーション	まちづくり/ コミュニケーション	地域住民	30	49	4.0
16019	知多市社会福祉協議会	ボランティア研修会 ボランティアが拓く未来～「オモイ」を「カタチ」に！～	ボランティア	地域住民 ボランティア	14	14	3.0
16028	刈谷市 市民協働課	平成28年度 協働に向けた意見交換会「協働のまつり場」 「かりや健康マイレージ事業」の推進と連携・協働に向けて ①共通基盤づくり、②誰もが健康に関心を持ち、継続して健康づくりに取り組むために ③「健康マイレージ」の取り組みを進め、広げるために、④私たちが連携協働できること	まちづくり	市民、 市職員	16	64	8.0
16030	特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター	次世代のNGOを育てるコミュニティ・カレッジ2016 全6回シリーズで学ぶ！「NGO活動とは何か」 第6回「参加の回路をつむぐ～おまかせ社会を超えて～」	参加	Nたま研修 生、スタッフ	20	20	4.0
16034	名古屋市 環境活動推進課	なごやの環境 はじめの1歩 ESD職員研修 参加型学習で気づこう！行動しよう！ “ESDの10年”が終わっても、終わりではないESD！	ESD	市職員	30	30	2.5
					195	474	92.5

2) ミッション④に関する成果2(その担い手を育成する研修)

◇2016年度の当該実績は、下表のとおりで、分析結果を以下に示した。

- ◇地域・テーマの場…地域コミュニティ2、イベント1、
 ◇対象…ボランティア2、交流館職員1
 ◇テーマ…国際理解系1、全般2
 ◇参加者数…94人(延べ94人)
 ◇提供時間…26.0時間

④-F 様々な地域やテーマの場における「その担い手を養成する研修」の2016年度の実績

No.	依頼主/主催	事業名/研修等テーマ	テーマ区分	対象	参加者数	延べ参加者数	WS時間
16010	公益財団法人 豊田市文化振興財団	豊田市交流館主事ファシリテーション研修 ファシリテーションのポイントと参加型手法活用のコツ!	ファシリテーション	交流館職員	17	17	3.0
16025	特定非営利活動法人 愛・地球博ボランティア センター	マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知2017 リーダー研修 ①ボランティアリーダー研修 ②エリアリーダー研修	ボランティア	ボランティア リーダー	62	62	18.0
16031	公益財団法人 愛知県国際交流協会	平成28年度企業OB/OG向け外国人児童生徒日本語指導員養成講座 2日目:自分にできることと自分の特技の活かし方を考えよう!	ボランティア	企業OB/OG 等	15	15	5.0
					94	94	26.0

(3) ミッション④に関する課題

<テーマコミュニティへの自主的アプローチの模索>

◇ミッション④は、委託や講師依頼といった相手先からの働きかけがあって行う事業がすべてであった。また、コミュニティづくりに関しては民間企業(コンサルタント等)やまちづくりNPOが、関連する委託や講師依頼の多くを担っている状況下で、結果としてよりミッション③に力を入れている状況である。

◇しかし、ビジョン実現のためには、ミッション③とミッション④は現場の両輪であるという位置づけを改めて確認し、NIEDが進めたいと考える「参加と対話によるコミュニティづくり」のあり方や方法について、NIED内部で共有することが、まずは肝要である。そのうえで、NIEDの強みと機会(SWOT分析)を生かし、自主的にテーマコミュニティ(例えば、身近なNPO、学校など)にアプローチしていくことが求められる。

<コミュニティづくりファシリテーター講座の開催検討>

◇これまでのNIED自主講座であるファシリテーター講座は、ミッション③の担い手養成の側面が大きかったが、現場の両輪という位置づけと、NIEDが直接コミュニティづくりをする事業やその担い手養成のための研修やそれに伴う調査・研究を積み重ねてきた経験を還元するという意味から、ミッション④の担い手養成に係るファシリテーター講座を定期的開催することは検討する余地がある。

⑤ ミッションに関する調査・研究をし、広くアドボカシー活動を行います。

(1) ミッション⑤に関する成果

◇2016 年度の当該実績は、下表のとおりで、分析結果を以下に示した。

◇アドボカシーの対象…自治体（市職員・まちづくり企画担当・地域住民）3、 学校（教員）3、その他1
◇テーマ…国際理解系4、自分・他者・社会に関わる力3（各1）
◇調査・研究に関わった参加者数…63人（延べ253人）
◇調査・研究に関する会議時間…63.5時間

⑤ 調査・研究、アドボカシー活動の2016年度の実績

No.	依頼主/主催	事業名/研修等一マ	テーマ区分	対象	参加者数	延べ参加者数	WS時間
16002	刈谷市 市民協働課	平成28年度刈谷市国際化・多文化共生推進支援業務 ②多文化対応プロジェクト	国際交流/ 多文化共生	市職員	15	60	8.0
16002	刈谷市 市民協働課	平成28年度刈谷市国際化・多文化共生推進支援業務 ③ESD実践・推進プロジェクト、	開発・国際理解/ 多文化共生	グローバル 人財、 学校教員	10	40	12.5
16003	公益財団法人 愛知県国際交流協会	多文化共生コミュニティガーデン提案冊子づくり業務 ①冊子原稿・デザインの作成、②提案冊子作成委員会の実施及び記録、 ③提案冊子作成に向けた意見交換会の企画・実施及び記録	国際交流/ 多文化共生	まちづくり 企画担当	25	65	7.0
16005	多治見市 高齢福祉課	多治見市笠原町における地域力向上アクションプラン策定支援業務 ①アンケート調査等による地域課題の抽出、③かわら版の作成	まちづくり	地域住民	-	-	-
16007	(特活)NIED・ 国際理解教育センター	わたしあなたみんなプロジェクト わたし・あなた・みんなに関わる力を育むためのテキストづくり 研究自主プロジェクトセルフエスティームラボの企画・運営	セルフ エスティーム	NIED会員 一般	8	48	20.0
16020	中部大学春日丘高等学校	春日丘高校SGH グローバル課題研究教材開発・作成 ①啓明・国際コース教材改訂(9時間/6回) ②特進・進学コース用教材(10時間/10回)	開発・国際理解	学校教員	-	-	-
16033	(特活)NIED・ 国際理解教育センター	(仮称)NIED本プロジェクト NIEDが培ってきたアクティビティやプログラムを基にして 国際理解教育の各テーマごとにNIEDオリジナル教材を出版	コミュニケーション	教員等	5	40	16.0
					63	253	63.5

<アドボカシー広報成果物>

16002 ②



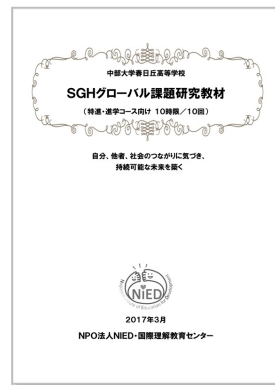
16002 ③



16003



16020



16005…笠原町地域力向上アンケート結果

16007…14年度～16年度 セルフエスティーム (SE) ラボ活動のまとめ

SE ラボが作成・編集するテキスト集についての議論集約

16033…2017年度テキスト出版に向けた下準備

(2) ミッション⑤に関する NIED の自主的取り組みの成果と課題

◇ミッション⑤に関する NIED の自主的取り組みに関する成果と課題は次のとおり。

<わたし・あなた・みんなプロジェクト> = ミッション②の自分に関わる力に関する研究・発信

区分	成果	課題
①SE テキストづくり	◇テキストの作成という一つの目標達成のためにも、メンバーの SE に対する考えを確認する意味で、この 2 年間の活動をまとめ、テキスト化する必要があるとして、主にこれまでのプロジェクト活動の振り返りの 1 年となった。	◆その「活動のまとめ」のテキスト化が、従来の目標であった SE テキストのガイドブック的役割を果たすこと、WEB 上にアップすれば「NIED の SE」の発信ができるなど、ほかにも見せ方、使い方によってはいくつもの価値がある。
②SE ラボ寄り合い	◇8 回行われた SE ラボを寄り合いとして開催した。毎回 4 名～8 名ほどの参加で、寄り合いとして NIED 人材の教育力向上に年間を通しての貢献ができたと言える。	◆SE ラボ寄り合いは、前年度に引き続き関係メンバー以外の参加が少ないが、すべての会員を対象に開催しつつも、興味ある活動を継続してできる例としては価値がある。寄り合いの意義も、そのような状況に合わせ、若干の転換を図るとよいのかもしれない。
③T 講座との連携	◇8 回の SE ラボ開催に加え、今年も SE ラボとして T 講座への参加をし、T 講座と SE ラボの 2 つの自主プロジェクト相互の連携を継続できた。 ◇今回の T 講座との連携は、対立を SE という視点でアレンジしたプログラムとなり、「わたし」と「あなた」を捉えた興味深いアプローチで、ラボという研究の場らしい取り組みとなった。	◆3 年続けている分、会員全体にとっての新たな魅力に欠けるところがあり、年度後半に従ってラボメンバー以外の参加がなくなっていった。目的は変えず、それを果たすための手段を変えてみる時期とも言える。

< (仮称) NIED 本プロジェクト > = ミッション②の他者に関わる力に関する研究・発信 (2017)

成果	課題
◇今まで NIED が培ってきたアクティビティやプログラムを基にして国際理解教育のテーマごとに NIED オリジナル教材を出版する。そのためにブックプロジェクトを立ち上げ、作成する教材の内容について会議を 7 回開催した。 ◇集まったメンバーで「本のサイズ」「テーマの選定(コミュニケーション)」「大まかな目次」「アクティビティの書き方フォーマット」などを決めることができた。	◆資金面では、助成金(モリコロ基金)に申請を行い採択された。その計画どおり、教材の出版、活用のための講座を実施する必要がある。

< 書籍活々 (いきいき) プロジェクト > = 全ミッションに関わる調査・研究

成果	課題
◇新たに、30 冊の書籍・教材を購入した。特に、16035 中部大学春日丘高校アクティブ・ラーニング教員研修の事業のために、各学校種、教科別のアクティブ・ラーニングに関わる書籍を揃えた。 ◇「書籍貸出管理表」の使用を継続した。今年度は 8 人から 17 冊の利用があった。	◆貸出状況を会員と共有する必要がある。 ◆どんな書籍があるのかを共有すると共に、それらをどのように活用し会員の学びに役立てるのかを考える必要がある。

<NIED 情報共有システム> = 全ミッションに関わる調査・研究

区分	成果	課題
実績成果の共有	<p>◇実績成果に関わる情報ボックス「NIED-ShareBox-2」フォルダに、当該年度のT講座の記録等を整理・格納した。</p> <p>◇受託業務への派遣される NIED ファシリテーターのニーズに応じて、過去のプログラムや教材を提供した。</p>	<p>◆情報ボックスの認知度と活用度の向上について検討する必要がある。</p>
一般情報共有・交換	<p>◇会員間メーリングリストの年間投稿数は、340 件[前年度:370 件]であった。</p> <p>◇NIED 徒然の発行月は、6 月、7 月、10 月、1 月、3 月と 5 号[前年度:8 号]発行した。</p> <p>◇「NIED-ShareBox-1」は、一般的なウェブからもアクセスできるようなシステムを作り、周知を図った。</p>	<p>◆NIED 徒然を定期的に発行するための方策について検討が必要である。</p>

<ホームページ・広報プロジェクト> = 全ミッションに関わる発信

成果	課題
<p>◇NIED ブログ、NIED フェイスブックページに、NIED の活動実績等を 24 件 [前年度 42 件]更新した。</p>	<p>◆NIED のビジョン・ミッション・バリューを掲載し、それが伝わるような活動実績等の見せ方、その他発信の方法を検討する必要がある。</p> <p>◆残部僅かなため、NIEDリーフレットの更新等について引き続き、検討する必要がある。</p>

<総会寄り合い> = ミッション⑤に関わる研究・発信

成果	課題
<p>◇2015 年度の 3 月～4 月にかけて、5 回に渡り、半数以上の NIED メンバーが参加し、NIED のアドボカシーのあり方、ビジョン・ミッションについて考え、意見を出し合うことができた。</p> <p>◇その意見を基に、NIED のビジョン・ミッション・バリューをまとめ、署名依頼が来た時の対応方針について定めることができた。</p>	<p>◆NIED のビジョン・ミッション・バリューをより具体的に進めるための手立てや見直しについて、さらに NIED の力を結集し、実行に移していくことが求められる。</p> <p>◆署名依頼への実際の対応を試みる。</p>

3 事業の実施に関する事項（特定非営利活動に係る事業）

● A. 参加・対話・体験型の研修・講座などに対する相談・ファシリテーター派遣事業

(1) 事業内容

自治体、教育委員会、民間団体などからの依頼により、国際理解、人権、環境、まちづくり・ファシリテーションなどをテーマとした参加・対話・体験型講座・研修にファシリテーターの派遣を行った。

(2) 開催概要

2016 年度は、合計 35 事業（前年度：31 事業）で、研修等の提供時間は 150.5 時間（前年度：153.5 時間）あった。個別の事業の依頼主／主催、事業名／研修テーマ、実施日時、場所、対象、参加者数、提供時間、ファシリテーター・スタッフなどの詳細は巻末一覧表、収入・支出の内訳は活動計算書類を参照のこと。

(3) 延べ参加者数 1,810 人（前年度：1,431 人）

(4) 収入額 2,827,385 円（昨年度：2,148,494 円）謝金、委託費、交通費等

(5) 支出額 1,732,556 円（昨年度：1,344,737 円）給与・法定福利費 891,860 円、謝金 570,138 円
旅費交通費 269,514 円、その他 1,044 円

● B. 基礎研修およびファシリテーター養成などの自主講座事業

(1) 事業内容

主に、人権・環境など国際理解教育の基本テーマを扱うテーマ編、「月夜場」「お昼場」と題した自由な集まりの講座、NIED のオリジナル教材を出版するための検討会を自主事業として行った。

(2) 開催概要

2016 年度は、合計 3 事業（前年度：4 事業）で、研修等の提供時間は 69.0 時間（前年度：95.5 時間）であった。個別詳細は巻末一覧表および活動計算書類参照のこと。

(3) 延べ参加者数 136 人（前年度：256 人）

(4) 収入額 198,600 円（昨年度：621,600 円）参加費

(5) 支出額 201,852 円（昨年度：347,778 円）給与・法定福利費 68,809 円、謝金 130,290 円
旅費交通費 0 円、消耗品・その他 2,753 円

● C. 環境や人権などを視点としたまちづくりのプロセス企画・実施事業

(1) 事業内容

地方自治体などにおける環境や人権を視点としたまちづくりのプロセス・プログラムの企画立案、ファシリテーターとしての支援、記録・報告書作成までの一連の業務を行った。

(2) 開催概要

2016 年度は、合計 6 事業（前年度：4 事業）、研修等の提供時間は 188.5 時間（前年度：178.0 時間）のワークショップを行った。個別詳細は巻末一覧表および活動計算書類参照のこと。

(3) 延べ参加者数 1,264 人（前年度：1,483 人）

(4) 収入額 18,302,102 円（昨年度：16,473,773 円）委託費

(5) 支出額 16,349,380 円（昨年度：14,854,801 円）給与・法定福利費 6,324,507 円、
謝金・外注費 6,749,580 円、旅費交通費 1,257,682 円、通信運搬費 529,896 円、
印刷製本費 1,253,700 円、消耗品・保険料・その他 234,015 円

● D. 目的を実現するために必要な調査・研究・情報提供事業

(1) 事業内容

国際理解教育・開発教育を推進するため、「必要な調査・研究を行う」、「PRする」ことを、研究会方式などにより行った。

(2) 開催概要

2016 年度は、2つの事業（前年度：4事業）、研修等の提供時間は20.0時間（前年度：54.0時間）のワークショップなどを行った。個別詳細は巻末一覧表および活動計算書類参照のこと。

(3) 延べ参加者数 48人（前年度：122人）

(4) 収入額 168,480円（昨年度：419,200円）委託費

(5) 支出額 136,585円（昨年度：420,585円）給与・法定福利費 53,145円、謝金 81,000円、旅費交通費 2,440円

4 会議の開催に関する事項

(1) 総会 2015 年度定期総会

日 時 2016 年 6 月 18 日（土）13:40～16:35

場 所 本山シェアオフィス（NIED 事務所）

出席者数 正会員総数 41 人中、当日出席 21 人、委任状出席 12 人、合計 33 人

議 題 (1) 2015 年度事業報（案）及び収支決算（案）の承認に関する件-----承認
 (2) NIED のビジョンとミッションに関する件-----承認
 (3) 2016 年度事業計画（案）及び予算（案）の承認に関する件-----承認
 (4) 役員の変更に関する件-----承認 (5) 定款の変更の承認に関する件-----承認

(2) 理事会 2016 年度は、下表のとおり 7 回開催した。() 内はオブザーバー人数。

回	日時	議題	場所	出席
1	5月8日（日） 13：30～17：20	(1) 総会寄り合い、会員アンケートの成果の共有 (2) NIED のビジョン、ミッションの検討	本山シェア オフィス	5人 (9人)
2	5月22日（日） 12：30～17：30	(1) NIED のビジョン、ミッションの検討 (2) NIED のバリューのアイデア出し	本山シェア オフィス	5人 (5人)
3	6月5日（日） 10：30～13：00	(1) NIED のビジョン、ミッション（案）について (2) NIED のバリューの検討 (3) 2015 年度事業報告（案）について	名古屋 NGOセンター	5人 (2人)
4	10月28日（金） 19：00～21：30	(1) NIED 受託事業にF派遣に関する検討 (2) NIED 本プロジェクトのモリコロ助成金申請について (3) 事務所の継続問題について	本山シェア オフィス	5人 (3人)
5	11月24日（木） 19：00～21：30	(1) NIED ファシリテーターの状況と今後について (2) NIED バリューの検討	名古屋 NGOセンター	5人 (3人)
6	12月12日（月） 18：45～21：30	(1) NIED バリューの検討	本山シェア オフィス	6人 (3人)
7	3月21日（火） 19：00～21：30	(1) ビジョン・ミッション・バリューの構築と事業化について (2) 本山シェアオフィスの今後について (3) 来年度からの NIED 謝金・給与規程（案）について (4) NIED の自主事業について	本山シェア オフィス	5人 (1人)